

# まほるば



## 弘前病院の理念

わたしたちは、医の倫理と病院としての使命に基づき患者さまの生命と人権を尊重し  
良質かつ適切な医療を提供するため、最善の努力をします

第55号 2006年1月発行

# 迎春



# 2006年

## 年頭に当たって — 新たな挑戦 —

明けましておめでとうございます。年頭に当たり職員の皆さんにご挨拶と今年の目標を申し上げます。

今年の目標は、「患者様から、より一層信頼される病院」になることです。そのために、一人ひとりが弘前病院の職員としての誇りと責任を持ち、職務に当たるようにお願いします。

患者様中心の医療の実現のために、院内・院外の医療連携を更に充実させていきます。院内では、医師、看護師、薬局、放射線、検査、医療社会事業専門員(MSW)、給食、事務等の職種間および職員同士の連携を密にして患者様の要望に適切に応えるようにします。

患者様の入退院から家庭生活や社会生活まで関わることが大きな意味での医療であるとの考えから、院外にはMSWを介して他の医療施設と病診連携を強めていきます。

病院は患者様と臨床研修医に評価される時代です。弘前病院が大きく発展していくために、病院機能評価を受審し認定病院になることを目指します。

医療の進歩はめざましく、昨日の知識で明日の医療を行うことは赦されず、医療人はたえず向上心と知識

欲を持って対処しなければなりません。そのうえ私たちに高度な医療、臨床研修、臨床研究、情報発信の分野で他の医療施設と連携を保ちながら、これをリードしていく責務があります。



病棟新築に向けて計画を始めます。患者様により安楽に療養していただくために環境整備が必要です。この実現には収支率の向上が必須です。職員の皆さんが一丸となってこの実現にがんばって下さることをお願いします。

青森県民は弘前病院に、津軽地域の中核病院として、がん医療や育成医療は当然のこと、被ばく医療対策など他の医療施設では困難な医療に取り組んでいることに大きな期待と関心を持っており、これらの期待に応えるのが私たちの使命であり、また喜びです。

今年は「挑戦」の年にしたいと思います。更なる発展をめざしてがんばりましょう。

院長 五十嵐勝朗

## 津軽地方の初詣 — 新しい年の始まりに / 津軽一大様 —



新しい年、平成18年戌年の始まり、いつになく穏やかなお天気で、初詣にお出かけの方も多かったのではないのでしょうか。弘前の八幡様も、お参りの方の長蛇の列ができていたようです。

ところで、この八幡様、祭神のうち八幡大神は応神天皇で、12月(戌の月)14日(亥の日)に生まれ、百歳を越える長寿で、戌・亥年生まれ的一大様になったと言われています。一大様にお参りするという風習を考えると、今年の初詣の列が長かったのもうなずけます。

津軽地方では、それぞれの干支に対応した守本尊一

大様がありますが、他の地方ではまったく馴染みのない所もあるようです。では、「津軽一大様」をご紹介します。「子」年は目屋の清水観音「多賀神社(千手観音菩薩)」、「丑・寅」年は百沢の虚空蔵様「求聞寺(虚空蔵菩薩)」、「卯」年は2か所あり、最勝院の文殊様「金剛山最勝院(文殊菩薩)」と茂森の天満宮「天満宮(文殊菩薩)」、「辰・巳」年は愛宕様「橋雲寺(普賢菩薩)」、「午」年は袋の観音堂「白姫山神社(勢至菩薩)」、「未・申」年は大鰐の大日様「大円寺(大日如来)」、「酉」年は古懸の御不動様「国上寺(不動明王)」、「戌・亥」年は弘前の八幡様「弘前八幡宮(八幡大菩薩)」となっています。

一大様へのお参り、一度いかがでしょうか。

庶務係 工藤 真淑

## 病気の診断と病理検査



病気には炎症や腫瘍など様々な種類がありますが、それらの診断には病理検査が重要な役割を果たしています。病理検査は、臨床

検査の一つですが、病変のある臓器や組織を肉眼で観察したり、細胞や組織の変化を顕微鏡を用いて検査し、病気の最終診断をする点が他の検査とは違うところです。

病理検査には、生検・手術材料の組織検査、細胞診、病理解剖の3つがあります。まず生検は治療方針を決めるため、生体から病変の一部を採取し診断を確定するもので胃・大腸や気管支の内視鏡検査の際などに行われます。手術摘出材料では病変部を切り出し、一定の過程を経て顕微鏡観察用のガラス標本を作製し病理診断を行います。もし腫瘍であれば良性・悪性、増殖や広がり、組織型などについて診断します。検体の受付から診断結果の報告までは通常3~7日位かかりますが、術前の病理診断が難しい場合に

は手術中に迅速診断が行われます。これは病変組織の一部を急速に凍結して標本を作製する方法で、20分前後で病理診断がなされ、その結果をもとに手術方針が決定されます。

また、簡便な検査法として細胞診があります。この検査は粘膜の分泌物や擦過物、尿、胆汁、胸水、腹水などの検体で悪性細胞の有無や感染症の判定などを行うもので、組織検査と比べて患者様の負担も軽く、子宮癌、肺癌、乳癌などの検診にもよく用いられています。最近では乳腺、甲状腺などにできた腫瘍の穿刺吸引細胞診もよく行われるようになりました。

病理解剖は、診療中の患者様が不幸にして亡くなった場合、ご遺族の承諾のもとにご遺体を解剖させていただくもので、剖検とも呼ばれています。死因は何か、病変がどのようなものであったか、適切な治療がなされていたかなどを検討します。どんなに画像診断や特殊な診断技術が向上しても、剖検によって初めて確かめられる事実も多くあります。剖検は医療の質を向上させるうえで重要な役割を果たしているものと思われます。

研究検査科長 松本 一仁

## クリスマスおゆうぎ会 —— 風の子保育園 (院内保育所) ——

昨年、12月11日(日)、風の子保育園の「クリスマスおゆうぎ会」が園児全員32名による「あわてんぼうのサンタクロース」の元気な歌声とともに行われました。

0歳児は、泣き声も見られず、犬のぼうし、しっぽをつけてかわいらしい姿を見せてくれました。2~3歳児は、昨年とは違って、舞台にも慣れ、フリフリの衣装で踊ってくれました。また、みんなで力を合わせて、大きなかぶを抜いた劇でも楽しく演じていました。4~



6歳児は、かっこいい振り付けで、青春アミーゴ、NO MORE CRY、ワンナイトカーニバルと、舞台狭しと、はりきってダンスをしてくれました。最後に、クリスマスには少し早いけど、サンタクロースの登場に子どもたちは大喜びでした。年長児

の「どこからきたの？」の質問に、「フィンランドからトナカイのソリに乗って来ましたよ」と答えると、子どもたちは「本物だ〜!」と歓声をあげ、サンタクロースについて、興味深々の様でした。サンタクロースから一人ずつ大きなプレゼントをもらい、ニコニコ笑顔でした。



おゆうぎ会が終わる度に、大きな成長を見せてくれる子どもたちと、今後予定している、スキー遠足、豆まき、おひなさまお茶会、卒園式などの行事を楽しんでいきたいと思ひます。園長 諏訪 栄子

## 美しい歌声が響く —— クリスマス・キャロリング ——

クリスマスの時期になると、弘前学院聖愛高等学校の生徒らによる賛美歌の歌声が当院の病棟で響き渡ります。「キャロリング」とは、もともと病気などで教会に来られない方々にクリスマスの喜びを伝えるために、家々を訪問し合唱などプレゼントする奉仕活動だそうです。

当院では、毎年恒例行事となっており、今年も弘前学院のご厚意により、12月19日(月)に、母子医療センターと西1病棟(小児病棟)で、「きよこ

の夜」などの美しい歌声を披露していただきました。病棟では、この美しい歌声に誘わ



れたのが、病室から多数の患者様が集まり、生徒の歌声に合わせて歌っている姿がとても印象的でした。

管理課長 齋藤 侯智

# 外来診療一覽

◆外来医師診療一覽表 (H18年1月1日現在)

診療科		月	火	水	木	金
内科		人見博康	小沢一浩	人見博康	小沢一浩	小沢一浩
呼吸器科		山本勝丸	中川英之	中川英之	山本勝丸	中川英之
消化器科		佐藤年信 吉谷元	佐藤年信 中畑元	佐藤年信 吉谷元	中畑元 (吉谷元)	佐藤年信 中畑元
小児科		杉本和彦 野村由美子 (佐藤啓)	野村由美子 遠藤泰史	杉本和彦 神田進 (佐藤啓)	神田進 遠藤泰史	野村由美子 和彦啓
外科		山中祐治 木村寛	高橋克郎 三上勝也	横山昌樹 山中祐治	横山昌樹 高橋克郎	三上勝也 木村寛
整形外科	午前	柿崎寛成 佐々木資嗣 近江洋	柿崎寛卓 菅原卓	佐々木資成 田中成	佐々木資成 大鹿周佐	柿崎寛大 田中寛
	午後	/	/	/	/	柿崎寛
脳神経外科		/	/	木村正英	/	/
皮膚科	午前	鳴海博美 間山淳	鳴海博美 間山淳	鳴海博美 間山淳	鳴海博美 間山淳	鳴海博美 間山淳
	午後	間山淳	/	鳴海博美	/	間山淳
泌尿器科		橋本安弘	橋本安弘	橋本安弘	橋本安弘	橋本安弘
産婦人科		真鍋麻美 葛西亜希子	佐藤春夫 葛西亜希子	真鍋麻美 葛西亜希子	●妊婦検診	佐藤春夫 真鍋麻美
眼科	午前	田中洋	蒔苗順義	田中洋	蒔苗順義	田中洋
	午後	蒔苗順義	/	/	蒔苗順義	/
耳鼻咽喉科		黒田令子 阿部尚央	黒田令子 阿部尚央	●手術	黒田令子 阿部尚央	黒田令子 阿部尚央
放射線科	診断 治療	佐々木幸雄	佐々木幸雄 阿部由直 (午後)	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄
麻酔科		●手術	高澤鞆子 工藤明	●手術	高澤鞆子 工藤明	●手術

※学会、出張などにより担当医師が替わる場合があります。

## 職場紹介 (薬剤科)

当院の薬剤科には、薬剤師7名、助手2名の計9名が勤務しています。基本方針は、患者様に安全で納得して薬を正しく使用していただくために、医薬品の適正使用を目標とした服薬指導と医薬品情報提供業務に重点をおいて医薬品供給業務を行っています。また、副作用の収集にも努力しています。

国の政策医療でもある院外処方箋を発行しており、昨年の12月分では約6,100枚の処方箋（発行率94%）が院外の保険調剤薬局で調剤されています。医薬分業の患者様のメリットは、患者様の薬を一括管理できる点です。処方箋を受け取ったかかりつけ調剤薬局は、薬の安全性を計るため履歴を作成し、副作用・相互作用（のみあわせ）のチェックを行い、又重複投与の確認をすることで患者様の医薬品費の軽減にもつながっています。

医薬品供給業務としては、①調剤薬は、薬袋印字・薬歴等の調剤支援システムを導入しており、処方箋の内容に一致した薬袋が出力されるため、書記業務が省力化されています。また、支援システムを利用することにより、外来・入院の患者様の薬歴などが

収集できるメリットがあり、薬剤管理指導業務推進の大きな要因になっています。②注射薬は、個人セット制で、患者様毎に払出ししていま



す。また、注射抗ガン剤の払出しは、事前に病棟等より処方内容をFAX等で連絡を受け、レジメン等チェックして必要分を用意し、過剰在庫にならないよう在庫管理を行っています。製剤室は、院内製剤、特殊製剤、注射薬の混注（TPN）を主に行っています。

毎月1回の割合で、院内で使用する医薬品、医療用具、医療消耗品、検査試薬について審査する「薬剤委員会」開催のための準備を行っています。

当院は、国立病院機構が率先して行っている臨床研究（治験）施設であり、治験管理室のバックアップを積極的に行っています。

薬剤科長 寺谷 弘二

## ふるさと紹介 — 広島市 —



私が高校卒業まで暮らしたのは、中国地方最大の都市広島市です。広島は瀬戸内海に面し、多彩な海の幸に恵まれています

が、この寒い時期にはなんといっても牡蠣が有名です。牡蠣の食べ方にも色々ありますが、なかでも殻付の牡蠣をそのまま網で焼いて熱々を食べるのが私は一番好きです。また、あまり有名ではありませんが、広島県はかの横山大観が愛した酔心を始め、数々の銘酒の産地でもあり、おいしい牡蠣と一緒に日本酒を召し上げる機会に恵まれれば至高の一時が過ごせること請け合いです。また、有名な牡蠣の土手なべを召し上がりたい方は、平和公園の近くの川べりの牡蠣船へ行ってみられると良いでしょう。私が子供の頃にはバラックが建ち並んでいた本川も今ではすっかり整備され、川土手は市民の憩いの場所になっています。変わったところでは、本川クルーズにお出かけになるのも良いかも知れません。

夏には涼しくて風に吹かれながら飲むビールはとてもおいしいものです。

ところで、広島市内を散策すると街の中央にあの原爆ドームを目にすることになるでしょう。現在の広島市には平和公園の原爆ドームと資料館以外にはその凄惨さを思い出させるものはありません。被爆後の焼け野原と大混乱から中国地方一の大都市へと発展を遂げる広島市民の大きな支えとなったのは、原爆ドームの向かいに立つ広島市民球場を本拠地とする広島カーブです。大企業の援助を受けない市民球団として発足した広島カーブはまさに広島市民の誇りです。広島カーブの公式戦のあるときには地元中国放送のラジオでは必ず野球中継をしていますし、当日券も結構手に入りますので、お時間に余裕がある方は球場にも足を運んでみてください。勝っても負けても試合後球場前から路面電車に乗り込めば、広島弁が飛び交いにわかカーブファンを体験できます。

このような私の故郷広島を、皆様も是非一度訪れていただきたいと思っています。

耳鼻咽喉科医長 黒田 令子

## 川 柳

(今月の作品)

外来で待った しびれも 診てもらい (恋野泣子)

外来で 挨拶交わす 元気かと (西野英子)

時代うつり 事務のサービス エプロンか (木村ひで)

※ 掲載した作品は、広報誌編集委員会を選出したものです

## ★ 作品（川柳）募集のお知らせ

当院では、広報誌「まほろば」に掲載する“川柳”を募集しています。応募される方は、患者様でも職員でも何方でも結構です。多数の応募をお待ちしています。

【応募方法】◆ 用紙は、備え付けのものでも、それ以外でも結構です。

◆ 応募は、備え付けの箱に入れて下さい。

(\* 箱は、駐車券をパンチしている机の上に設置しています。)

## 生花を生けて下さる方を募集しています！（編集部）

当院では、玄関と外来管理棟2階の二か所に生花を飾っています。職員で、この生花を生けて下さる方を募集しています。

詳細については、管理課長まで問い合わせ願います。

発行元 **独立行政法人国立病院機構弘前病院**  
Hirosaki National Hospital  
責任者 副院長 佐藤 年信

〒036-8545 弘前市大字富野町1番地  
TEL0172-32-4311 FAX0172-33-8614  
ホームページ <http://www.hosp.go.jp/~hirosaki/>